

地域の会 質問・意見書

日付：2022年7月19日

氏名： 竹内 英子

資源エネルギー庁と東京電力 に対する質問

1. 2022年度の電力需給に関する総合対策(概要)について資源エネルギー庁と東京電力へ質問です。
2022年3月22日に発生した東京エリアにおける電力のひっ迫は、直前の3月16日の地震で火力発電所が止まってしまったことと、季節外れの寒波によるものでした。さらに先日6月27日から29日の電力ひっ迫も、季節外れの猛暑によるものでした。
節電の呼びかけと最悪の場合、突然停電するという事は繰り返し伝えられましたが、節電以外にどのような取り組みをしていて、今後どうなるのについてはよくわかりませんでした。以下3点について教えてください。
 - ① 結果的に3月も6月も過酷な気温の中で停電をせずに乗り切れたことはとても良かったのですが、突然停電する最悪の事態を防ぐための「計画停電」の準備はしていたのでしょうか。
 - ② 2017年に制度化された、事業者からの要請に応じて需要家が需要を抑制し、その抑制量に応じた対価を事業者が支払う「ネガワット取引」で、企業もピーク時の節電対策に取り組みやすくなるのではないかと思うのですが、今回の電力ひっ迫ではネガワット取引はどのように活用されたのでしょうか。
 - ③ 近年の東京電力管内の最大電力需要をみると2001.7.24の6,430万kwがピークであり、中越沖地震で柏崎刈羽原発においてすべての原発が停止していた2008.8.8の6,089万kwを最後に10数年間6,000万kwを超えていません。今回の電力ひっ迫では、猛暑のピークである7月1日でも5,546万kwでした。原発以外の発電所も含めた東京電力管内の必要な電力を確保するための計画はどのようになっているのでしょうか。(東京電力のみへの質問)